今に生かされている
その大切さを
未来に生きる子供たちへ

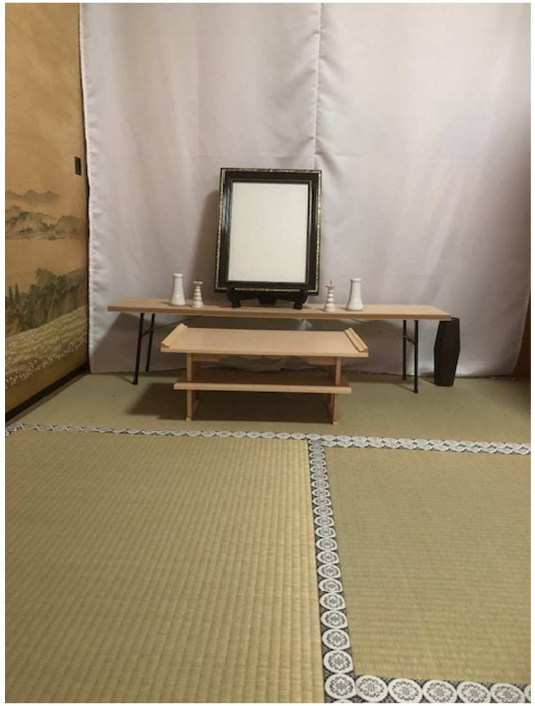
科学技術の進歩は、いつの間にか、私たちから謙虚さやいたわりの情を奪い取っていました。
むしろ、科学の力さえあれば、どんなことでも可能になるという考えが頭をもたげ、
自らの生きる土台を顧(かえり)みることをついぞ怠ってきた、と言った方がよいのかも知れません。
そんな私たちに今、地球という大きな生命体は、自然環境保全という難問をつきつけています。
それは、人間関係においても同様です。子供という純真な鏡は、今日の歪んだ風潮を悲しいまでに映し出して、
大人たちの生き方に警鐘を鳴らしています。

—人間は自分で生きているのではなく、大きな存在によって生かされている—

—人間は決して孤立しては生きていられず、みんなが助け合いながら生きている—
環境破壊も子供の心の荒廃も、こうした人間の本源的な思想をいつしか見失い、
誰しもが自分中心主義に陥って生きていたことを反省し、自己の「生」を真剣に見つめ直す契機とするために、
与えられた課題であるような気がします。
いつの時代にも、そして科学技術がいくら進歩したとしても、人間が生きてゆく上で決して忘れてはならない
心構え……。
最愛の人は最期の別れに、「このことだけは絶対に忘れてはいけないよ」とそっと囁(ささや)いていたはずです。

写真協力／雄山閣出版、プロコムジャパン、藤田庄市、出雲井晶

永代祭祀の祭壇



眞弓神社祖霊社仮祭壇

氏子のしおり　第44号　平成12年6月1日初版　発行／神社本庁
〒151-0053　東京都渋谷区代々木1丁目1番2号　電話03-3379-8011
http://www.jinjahoncho.or.jp